

情報連絡員報告総括表(平成29年9月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況			
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化	
製 造 業	食料品		3	1		4		1	3			4		3	1		3	1		4			4			2	2	
	繊維工業	1	1	1		3			3			2	1		1	2		2	1	1	2			3			2	1
	木材・木製品		1			1			1				1			1		1			1			1				1
	紙・紙加工品	1		1		2		1	1			2		1		1	1				2			1	1	1		1
	印刷		1			1			1			1		1			1			1			1			1		1
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	1	1	1	1	2			3			3			3			3		2	1			3			3	
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1			1		1				1			1		
	一般機器	1	2			2	1		3			3		1	2			3			3		1	2			3	
	電気機器	1				1			1			1		1			1		1				1			1		
	輸送機器	1				1			1			1			1			1		1			1			1		
その他																												
小計	7	9	4	1	18	1	2	18			18	2	4	11	5	2	16	2	6	11	3	4	15	1	4	11	5	
非 製 造 業	卸売業		1	1			2		1	1		2			1	1		2					1	1		1	1	
	小売業	2	3	1	1	5		3	3			6			2	4		3	3				5	1		4	2	
	商店街		1			1			1			1			1			1					1			1		
	サービス業	1	3	1				1	4			5		1	3	1		5					5			4	1	
	建設業		2	2					3	1		3	1		3	1		3	1				4			3	1	
	運輸業	1							1			1		1				1					1			1		
	その他		1						1			1		1				1					1			1		
小計	4	11	5	1	6	2	4	14	2		19	1	2	10	8		16	4				18	2		15	5		
合計	11	20	9	2	24	3	6	32	2		37	3	6	21	13	2	32	6	6	11	3	4	33	3	4	26	10	

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成28年9月～平成29年9月)

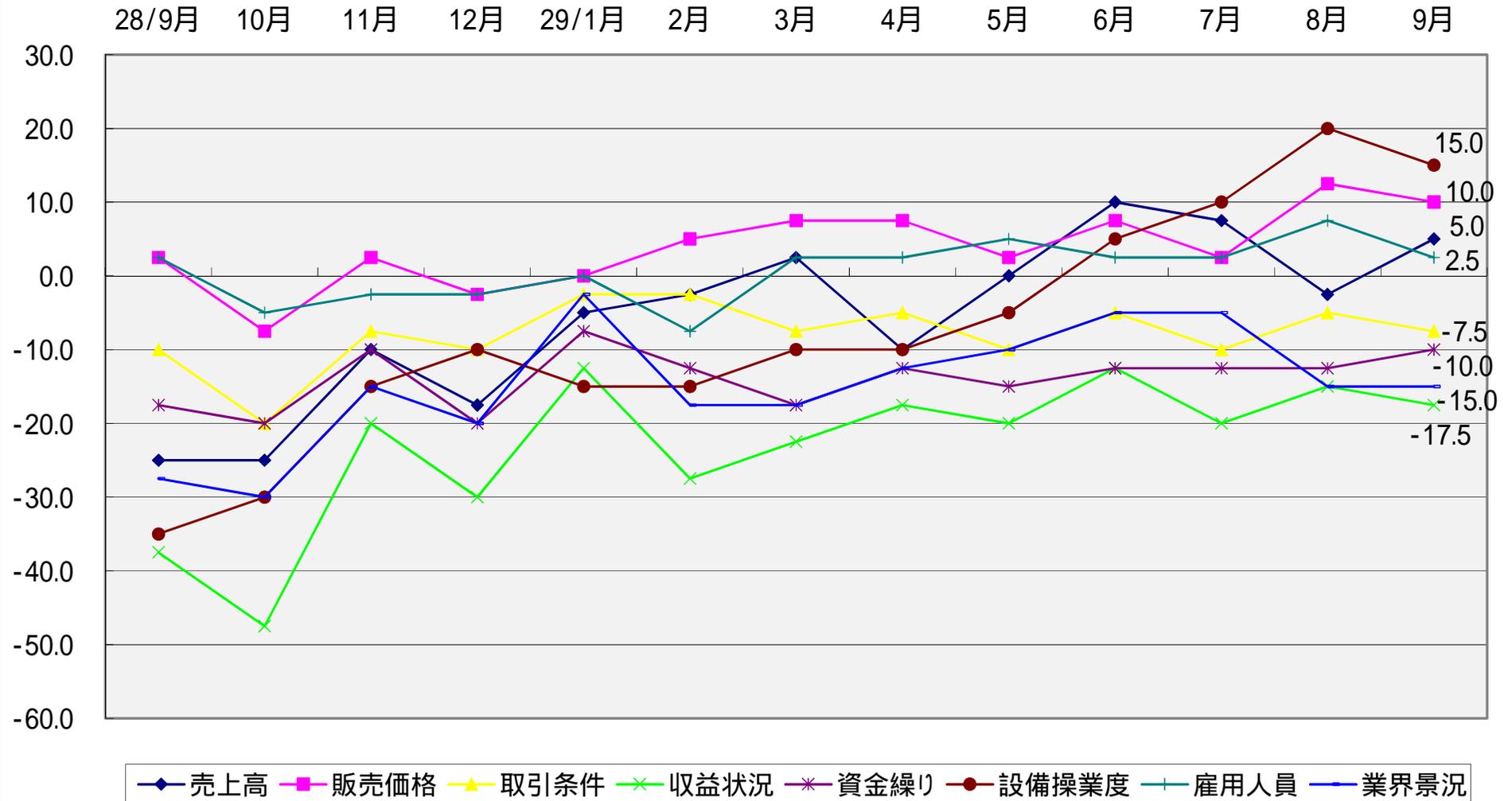
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	28/9月	10月	11月	12月	29/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-25.0	-25.0	-10.0	-17.5	-5.0	-2.5	2.5	-10.0	0.0	10.0	7.5	-2.5	5.0	7.5
販売価格	2.5	-7.5	2.5	-2.5	0.0	5.0	7.5	7.5	2.5	7.5	2.5	12.5	10.0	-2.5
取引条件	-10.0	-20.0	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	-10.0	-5.0	-10.0	-5.0	-7.5	-2.5
収益状況	-37.5	-47.5	-20.0	-30.0	-12.5	-27.5	-22.5	-17.5	-20.0	-12.5	-20.0	-15.0	-17.5	-2.5
資金繰り	-17.5	-20.0	-10.0	-20.0	-7.5	-12.5	-17.5	-12.5	-15.0	-12.5	-12.5	-12.5	-10.0	2.5
設備操業度	-35.0	-30.0	-15.0	-10.0	-15.0	-15.0	-10.0	-10.0	-5.0	5.0	10.0	20.0	15.0	-5.0
雇用人員	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0	-7.5	2.5	2.5	5.0	2.5	2.5	7.5	2.5	-5.0
業界景況	-27.5	-30.0	-15.0	-20.0	-2.5	-17.5	-17.5	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-15.0	-15.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成29年9月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	漬物	業界の企業物価指数は、概ね横ばいで推移している。又、関連の消費者物価指数は緩やかに上昇傾向を示している。生産量については、酢漬類と糖漬類は増加しているものの、醤油漬類、粕漬類、浅漬類は減少し、先月同様に相殺する傾向となった。これから秋・冬を迎え、業務用、自家用大根おろし製品の伸びが期待される。
		醤油味噌	イオン東員店での「三重・しょうゆ街道」（イベント）は、10月6日（金）～9日（月）に開催日が変更となった。三重県の街道沿いにあるしょうゆ蔵で造ったしょうゆなどの展示、味くらべ、試食、即売会のイベントである。「しょうゆもの知り博士の出前授業」（小学校向け）で、これまで全国規模で活躍した当組合の0Bが「しょうゆの日の集い」で表彰された。
		豆腐	昨年同時期に比べ、原材料の大豆は輸入産、国産ともに安値である。
		製麺	9月30日、10月1日と秋田県湯沢市で開催された「全国まるごとうどんエキスポ」に参加した。全国から19店舗が参加し、4万人の方々にご飯を食べて頂いた。組合としては、初出店であり、2,400食の実績となった。
	繊維工業	衣料縫製	10月からの最低賃金の改定に関わらず、加工賃は以前のままということで、大変難しい状況の中での経営を行っている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	販売量は、相対的に前年度よりマイナスからの微増である。仕入先からの段ボールシートや製品価格の値上げ交渉が本格化してきた。遅くとも年内に決着しそうである。
		古紙	9月期の仕入量は、前年比：段ボール・約97±5%位、新聞、チラシ・約93±3%位、雑誌、雑紙、その他・合わせて約94±4%位の中での推移である。古紙の輸出（段ボールと雑誌）ができず、価格が大きく値下がりした。廃プラスチックの輸出もストップしている。製紙会社は、国内生産を進め、製品輸出をより多く出来る環境ようである。古紙の合計仕入れ量は、先月に続き集荷が悪く、段ボールは軽量化が進むと同時に一か所から出る量が減っている。大手流通会社などの顧客は子会社や管理会社を通じての取引となり、直接の契約が出来にくくなっている。新聞雑誌類も軽量化やそもそも購入しないことことが多く、発生が激減している。様々な回収方法がある事や持去りも原因と考えられる。急な気温の低下で肌寒く、秋需の季節になり、観光客が増加し、景気が良いはずの古紙業界であるが実感はない。
	印刷	印刷	今年度も三重県より県民手帳の製作販売が当組合に決定した。5月からすすめてきた製作が完了し、10月17日の発行に向けて広報、販売活動を行った。「三重県をもっと身近に」をコンセプトにコンテンツの見直しや新企画等、三重県民がさらに役立つ情報手帳を目指した。この手帳が県全体の発展向上に貢献できることを期待している。
	窯業・土石製品	伊賀焼	9月は、伊賀焼陶器まつりが開催され、昨年に続き全体的に売上は好調であった。一方、伊賀焼伝統会館については、8月が良かった反動で入館者、売上ともに昨年を下回った。伊賀・信楽古陶館については、昨年並みであった。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、自動車関連に関しては、8月に比べ、若干減少したものの、まだまだ好調である。産業機械関連も順調に推移しており、これは工作機械メーカーの好調さが物語っている。半導体関連部品は、8月と比べ、足踏み状態であったが、これは切削加工が間に合わない事が原因で、まだまだ増産状態は続く見込みである。
	一般機器	四日市	先月とあまり変化は見られない。地域の経済環境は決して良好とはいえず、相変わらず企業個々の努力で頑張っているのが現状である。
		伊勢	10月1日から三重県の最低賃金が時間額820円に改定されたが、既存の賃金の確認及び引上げ、新規募集時の時給検討など雇用確保が難しく、時間外超過対応、三六協定の見直しも問題となっている中、各企業にとっては重要課題が山積みとなっている。地元企業の情報や世の中の動きをよくみて、対応をしていきたい。
	電気機器	鳥羽	中間期末を迎え、受注量は10%アップし、稼働率が上がり、久しぶりの繁忙月を迎えた。
輸送機器	鈴鹿	引き続き稼働率が高くなってきており、人手不足である。人材派遣業者も人を集められず、人件費高騰の傾向が強くなっている。	
非製造業	小売業	青果	野菜：前半、日照不足や雨の影響で、品薄で高値である。特にキュウリ・トマトが高い。白菜・キャベツ・ほうれん草なども生育不良で入荷が少ない。一方、北海道産のカボチャがお値打ちである。玉葱・ジャガイモ・人参も順調に入荷。後半、キャベツ・レタス・白菜・ほうれん草とお値打ち価格になっていた。中でも、秋の味覚のキノコ類が豊富に出そろっている。松茸も今は中国産が中心であるが、そろそろ国産が出回り始めるころである。果物：前半、秋の味覚が豊富に出そろい、お値打ちである。ピオーネ・マスカットはおいしく、柿・洋ナシなどの新しい果物も楽しみ、幸水ナシは長野産がピークである。リンゴは例年に比べ、3割ほど安くお値打ちである。後半、県内産の極早生ミカン是最盛期であり、味も色付きもよく、お値打ちである。入荷が遅れていた栗と柿も増え、価格も少しづつ下落している。
		自転車	自転車商連合会より、一部メーカーのキャンペーン売り出しを実施するも、組合員の注文は一部のショップに留まり、一般車の動きは昨年並となった。しかし、中旬には電動アシスト車が少しずつ動き始め、北南勢地区より中勢地区へと自動車運転免許早期返納者等の需要があるように感じる。来月10月14日、15日に開催される「中部日本サイクリング大会in三重」が御座白浜で行われるということで、我々の業界としても、数多くの参加者がいることを期待している。

非製造業	小売業	電器	夏商戦後は、秋から年末商戦の仕込みの時期である。地域電器店では、お客様との接点活動に重点を置き、総顧客訪問活動が中心の活動となる。お客様の困りごと相談などと、各キャンペーンの実践や地域毎に秋の合同展示会や個展を開催し商品の買い替え推進を実施していく。具体的には、味覚の秋でもあり、訪問活動や展示会で、調理家電商品の実演や4Kテレビ、省エネ商品の提案や家丸ごとリフォーム需要の獲得のため、情報収集活動をすすめている。
		石油	9月度については、8月中旬より原油価格上昇の影響により、値上げ状況であったため、燃料販売数量については、前年比2%前後の減販であり、収益面においても燃料油及び油外商品も厳しい状況であった。全国石油商業組合連合会と都道府県石油組合では、9月1日から災害時に地域と国民の安心を支えることを目的とした「満タン&灯油プラス1缶運動」を組合員の協力を得て全国展開をしているので、災害時の給油所での混乱を避けるためにも、日々の燃料油購入において満タン運動の提案をしているので協力願いたい。
		スポーツ	学校へ納品する体操着の価格が少しづつ上がっている。ほとんどが中国での生産であるが、人件費がかなり高くなり、企業内又は業界内で、吸収できない状態である。特に体育館等で使用するシューズが20%程度値上がりし、3年契約にて学校と価格規定を締結しているため、値上げはできず困惑している。
	商店街	熊野	今月開催予定だった商店街内の朝市イベントは、毎年近隣の小中学校の運動会と重なるため、今年から9月のイベントは開催を見合わせることになった。ただ、毎月出店される業者にとっては、開催を希望する声もあり、次年度以降は再検討も必要かと思う。
	サービス業	旅館	最近の大手エージェントの情報によると、愛知県、三重県、岐阜県の中では、三重県は半期の実績とこれから半期の予約見込共に他県と比べて不振であるとの発表があった。昨年は、相次ぐ台風情報にも関わらず、好調であったが、今年は全般的に不振で式年遷宮の翌年（H26年）の実績に戻ってしまったようだとの声をよく聞く。
		警備	例年通り繁忙期となり、人手不足のため、料金値上げとなり、収益としては上がったが、業界全体として人手不足の状態である。
	建設業	内装工事業	9月は中間決算のところもあり、売上の調整もかかり、対前年比較では大幅に減少となった。（前年同月の売上が多いため）今後、売上は昨年度同様上下動していく可能性が高く、予測が難しい。
		水道工事業（四日市）	今月は特に目立った動きはなかった。工事で使用する管材等の材料に値上げの動きがみられる。
	運輸業	トラック	荷動きに若干の増加傾向が見られた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の組合で実施したアンケートによると、1月～6月の対前年同期で、売上増加が50%、横ばいが42%となっている。産業別売上比率は、自動車関連が65%、産業機械が16%、半導体関連が7%の順になっている。利益動向は、増加が46%、横ばいが45%、減少が9%とどの数字をみても好調さが伺える。
一般機器	四日市	衆議院が解散した。来月には新たな政府の下で、我々中小企業とはかけ離れた所で政治が行われていくのだろう。自助努力のみである。
サービス業	旅館	県レベルでの「DMO」がいよいよ立ち上がり、三重県観光連盟が主幹となって動き出したことは、期待される場所であるが、スピード感のある推進を要望する。